

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200344		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム本郷		
所在地	美濃加茂市本郷町3丁目20-15		
自己評価作成日	平成22年9月17日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171200344&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者一人一人が本郷での生活に満足して頂けるよう、個々の興味を持てる制作や気分転換にも繋がる外出の機会をより多く設けています。近隣には、保育園、小学校、農林高校などあり、園児との交流会を定期的に行っています。小学校では、運動会などに招待して頂いたり、農林高校では、野菜、苗等の販売等地域の協力のもと、交流をさせて頂いています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、地域や家族との関係を大切に、常に、利用者の立場に立ち、思いやりの心でその人らしく満足のできる生活を提供している。職員一人ひとり、得意な技能を持った人が多く、利用者との共同作品を通して、残存能力の維持・増進のために活かしている。管理者・職員は、静かで穏やかな会話、問いかけの言葉等を心がけ、利用者から、穏やかな明るい表情を引き出している。職員は、前向きに課題意識を持ち、認知症ケアの専門職として、さらなるサービスの質の向上を目指して、日々、自己研鑽に励んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りや月例の職員会議、又は必要に応じて本郷理念の実現に向け職員同士の話し合い、確認をしている	「相手の立場に立ち、思いやりの心で個別のケアをし、家族、地域と共に安心して暮らせるよう支援する」を理念に掲げている。管理者・職員は、朝礼で唱和しながら共有し、満足してもらえる生活につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の回覧板に本郷たよりを回覧して頂き、本郷の皆さんの生活の様子等理解、協力を頂いています。保育園との定期的交流の場など、地域活動を積極的に行っています	地域の公園にごみ箱を設置し、利用者と共に、毎朝整理し、ホームとしてできる役割を担っている。地域の保育園・小学校・農林高校と交流を行っている。農林高校からは、生徒が実習で作った野菜を、食材として買入し、同校へ介護の出前講座も行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎日の散歩の際には、近隣の方への挨拶や話しかけにより、理解、協力をお願いし、農林高校の生徒さんによる販売や先生の研修の受け入れ等行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、利用者家族、包括支援、福祉課職員、ホーム関係者が参加し偶数月に開催されています。利用者状況、活動状況など報告させて頂き、色々な御意見を聞かせて頂いています	行政、民生委員、家族、利用者等が参加し、2ヶ月に1回、開催している。行事の報告、ボランティアの依頼等の他、次世代育成に向け、農林高校の生徒や先生に対して研修の場を提供している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域サービスネットワーク会議に参加し、行政の情報や介護保険の改正等得よう取り組んでいます。利用者状況等の報告に毎月連絡を取っています	日頃から、利用者の現状報告・困難事例の相談等、協力関係を築いている。地域のサービスネットワーク会議を通して、他の事業所との研修・交流等、積極的に取り組んでおり、情報を得るための機会が多くある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修、資料の回覧等職員の知識、理解を得、玄関の施錠は一般家庭と同じく安全な生活を送るを基準としています	職員は、法人の「身体拘束マニュアル」を基に研修を行い、拘束をしない介護を実践している。外部研修にも職員が順次参加し、回覧等により全職員が共有し、実践に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法のマニュアルを各職員が理解しており努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修への参加など職員の学ぶ機会を設けています。現在一名の利用者が成年後見人制度の手続きを行っています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接時に利用者、御家族が不安や心配のないよう重要事項の説明、契約内容等十分に説明し理解、納得のうえで実施しております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が意見、不満、苦情を表せるよう職員との関係を構築できるよう担当を決め、他の職員にも報告し情報の共有を図り、改善に努めています。法人の苦情受付窓口、第三者機関等活用しています	利用者・家族が要望や意見を出しやすい関係を築くため、常に問いかけながら、引き出すように努めている。出された意見・提案等は、全体会議で検討・共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の職員会議や必要に応じて意見、提案を聞きながらよりよい運営に活かしています。連絡ノートを活用し職員からの考えなど自由に書き質の向上につなげています	職員は、カンファレンス等において、気軽に意見を提案できる環境にある。「自分が利用するホームを皆で築き上げる」という気持ちで、一人ひとりの職員が自分の意見を提案し、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の環境、健康状態に沿った労働時間等確認し、各自の役割分担を設けることでやりがい、向上心を持てるよう努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人、中堅、リーダー、管理者コースで研修を開催しています。又、外部教育システムの参加の奨励、介護福祉士等の受験対策の受講講座など行っています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二か月に一度の向上委員会を開催しサービスの提供に関する情報や学習会を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に当たって御本人のケアマネージャーからの情報を基に直接、ご本人、家族から生活歴、家族構成、心身の状態等可能な限り情報収集し安心して頂けるよう努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人から頂いた情報や御家族にしか分からない利用者の性格、家族関係、生活史、認知症状など出来る限り丁寧に伺い共有し信頼関係の構築に努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御利用者、御家族の立場に立ち状況の把握と確認をしながら「その時」を見極め、今一番何が必要な状況であるか双方に助言、対応をしています。又、必要に応じ上司に相談し安心して頂けるよう努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と一緒に掃除や洗濯干し、取り入れ、洗濯たみや調理の下ごしらえと一緒にいる事で人生の先輩としての参考意見や教えを頂いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族には緊急以外の定期受診の対応、季節に応じた身の回りの物、ホームでの行事の参加、年二回の家族会、ケアプラン担当者会議など職員との触れあう機会を作っています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣の公園、スーパーへの買い物、ふれあい会館へ出向き、知人、友人との交流に繋がるよう心掛けています	近隣の利用者が多く、知人の訪問も多い。職員は気軽に過ごしてもらうよう雰囲気作りに努めている。馴染みの関係を継続するため、地域の人が集まる「ふれあい会館」や近くの公園、スーパー等へ出向いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆さんで協力しながら作品作りを行ったり皆さん一緒に楽しめるゲーム等提供し利用者同士の関わりの時間を設けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院される場合は病院のソーシャルワーカーとの連携、情報収集をとっています。又、法人内の施設入所の場合に於いても相談員からの連絡等継続的関わりを持っています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、利用者個々に合った作業、行事の参加など行い、御家族からの意向も聞き入れ、その方の状況と希望に合わせた対応をしています	職員は、利用者とは話し合う時間を大切に、穏やかな気持ちで聴くことで、思いや意向を把握している。家族の面会時にも、利用者の思いを聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御利用者様の生活歴については、御家族、知人等の面会の際、会話を通して把握に努めています。独居の方には包括支援センターからの情報からその人らしい生活を送って頂けるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的に観察をしていく上で体調の変化を見逃さず心身の健康管理に努めています。出来ることを見つけ、その方の能力の維持、向上に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族の意向を第一とし御家族の都合を確認しながら話し合いの場を設けています。課題に於いて専門的な知識等必要な場合は法人内の専門職の意見等相談しながら計画に取り組んでいます	利用者・家族・職員が参加の下、一人ひとりの利用者が生活していく上で、「より良いケアの提供」について検討し、家族の同意を得て、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、ケアプランに沿ってケースに記録を残し職員が情報を共有できるようにし、毎月の近況報告書、モニタリング、三か月に一度の評価表を通して更新のケアプランに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人、御家族の要望に合わせた他事業所からの情報収集など連携に努め他事業所との交流を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	多数のボランティアの受け入れにより楽しみを持って頂いたり、消防署指導の消防訓練を行い安全に暮らせるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先に関しては、ご本人、御家族の希望を基本とし御家族に受診をお願いしています。御家族の都合により往診をお願いして見える方もみえます。急変時には相談員等同行し、状態把握、対応方法等指導、説明を頂いています	かかりつけ医に関しては家族の希望に添い、事業所との関係作りに努め、適切な医療が受けられるよう支援している。家族による受診が基本であるが、家族の都合が悪い時や急変時は、職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内事業所の看護師との連携を図り、状態に応じて迅速に対応できるように努めています。往診を受けて見える方に関しては往診時に利用者様の健康状態を確認し指導、助言を頂いています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の地域連携室との連携が取れており入退院もスムーズに行えるよう情報交換、相談に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の体調の変化が見られた時は、ご家族、主治医との連携を取り、今後の対応方針や緊急時の対応、相談等支援しています。又、ご家族の意向も踏まえエリア長に相談しながら希望に添えるよう職員が情報の把握をし支援しています	入居時に、重度化や終末期について、ホームで支援できる範囲を説明し、家族の同意を得ている。状態の変化時には、家族・主治医と共に対応方針を検討・共有し、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを各職員が把握し対応が出来るようにしており、消防主催の救急救命講習に参加し全職員が実践力が付く様にしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の中で消防署主催の避難訓練の参加を取り組み、地域の協力が得られるよう働きかけています。夜間を想定した訓練を実施しています	年2回の防災訓練を実施している。近隣の会社の従業員や、ホーム近くに在住する法人の職員の住宅も緊急連絡の登録をしており、災害時の支援体制に組み込まれている。職員は誘導マニュアルに基づき、学習し、緊急時の対応等を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御利用者個々の個別ケアを実施し自己決定につながるよう支援し、ご本人の意志を尊重しその方に合ったケアを提供しています	職員は、穏やかで静かな会話に心がけ、一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。自己決定を尊重することで、笑顔の絶えない、落ち着いた表情がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉掛けの際には、ご本人の意志を尊重出来るような話しかけをし出来る限り自己決定して頂いています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者個々のペースを優先し本人の選択の確認、意志の確認、身体状況に合わせた対応をしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の身だしなみは本人の選択を優先しています。移動理美容を利用されてみえる方に於いては染め、パーマなど利用者の要望に沿って行っています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者に好みを聞いたり、下ごしらえ、配膳、盛り付け、片付けなど出来る方と一緒にしています。又、外食を楽しむ計画を立て実施しています	食材には、ホームの畑で採れた野菜や農林高校から仕入れた物を調理し、利用者と共に、皮むき等の下ごしらえや片付けをしている。誕生日には、職員と好きなものを食べに行ったり、月1回の外食ドライブを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養摂取は本部より管理栄養士の献立を基に毎食バランスのとれた食事を確保しています。水分はいつでも摂れるよう絶えずホールにお茶とコップを用意しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者の身体能力に合わせ、口腔ケアを行っています。義歯の方は洗剤剤を使い衛生に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄パターンを把握し職員間が情報の共有が出来るよう記録を残し、その方に合った対応とトイレでの排泄を基本として一人一人支援しています	排泄チェック表により、職員は一人ひとりの利用者のパターンを知り、さりげない誘導支援をしている。排泄の習慣を身に着け、紙パンツ使用から布パンツへと自立に成功した利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	管理栄養士より毎食野菜を多く取り入れています。水分補給も食事の他、入浴後、午前、午後、就寝前など行っています。又、便秘の方は主治医に相談し予防に努めています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様には一日おきの入浴を基本としていますが、体調や希望に沿って入浴をさせて頂いています	隔日の入浴支援を行っており、利用者の体調や希望により、清拭や足浴等を実施している。柚子・菖蒲等季節を感じる入浴を楽しんだり、拒否する利用者には、時間を掛けて促している。入浴は職員と利用者の楽しいコミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の身体の調子により居室で過ごされる方や一人一人の生活リズムを尊重し支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の薬の処方箋は直ぐに確認できるように専用のファイルに保管しています。又、処方箋の変更があった時には申し送り、ケースへの記録をし情報の共有に努めています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で一人一人洗濯干し等の役割を持って頂きその方の能力を活かしています。又、趣味等楽しみにつながる制作や散歩の参加など気分転換の支援をしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月、外出行事の計画や毎日の公園等の散歩、買い物同行など外出の機会を設けています。本部より公用車を借りドライブやイベントの参加など支援しています	近くの公園を毎日散歩している。また、毎月、計画的に買い物、催事、行楽地等に法人の車で出かけている。普段いけない所へは、家族に支援を依頼している。	利用者・家族は、市の福祉会館「すこやかタウン」へ定期的に出かけ、地域住民と触れ合うことを望んでおり、事業所も実施の方向で検討している。その実現に期待したい。

岐阜県 さわやかグループホーム本郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人、ご家族の希望より現金を所持して見える方は買い物の同行時におやつ、果物など希望に応じて購入して見えます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族、知人からの電話希望にはその都度、対応し又、利用者様が電話を希望された場合も対応しています。手紙のやり取りも出来るよう、はがきの用意もしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の整理整頓、窓からは季節の花、野菜作りなどで季節感を持って頂きテーブルの上にはお花を飾り雰囲気作りをしています。浴室、トイレ等は毎日掃除をして随時清潔に心掛けています	リビングは、天井が高く、広々とした空間があり、思い思いにくつろげるソファが設置されている。テーブルには、季節の花が活けられ、職員が持ち寄った材料を使って利用者と共に作った今年の干支等の見事な作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには御利用者がそれぞれに過ごして頂けるよう配置などレイアウトに工夫をしています。又、気分転換にもなるよう玄関先にベンチを置き外の景色を眺めて頂いています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、居室にはベット以外、御利用者の使い慣れた家具などを持って来て頂くよう御家族にお話をさせて頂き持ち込みの制限はしていません。御本人が使いやすいように配置等もして頂いています	居室には押入れがあり、スッキリと整頓されている。家族の写真や馴染みの家具等、利用者が住みやすいよう配置し、生活感のある環境となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、自立につながるようホール内の整理整頓、環境を整え、その日の献立やその月の予定、行事を掲示し生活の自立につなげています		